

# PJ-Engとは。



# プロジェクト・エンジニアリング（PJ-Eng）ってなに？

PJマネジメント活動は、目的（Requirement）を達成するために実施するもの

目的地にたどり着くには……

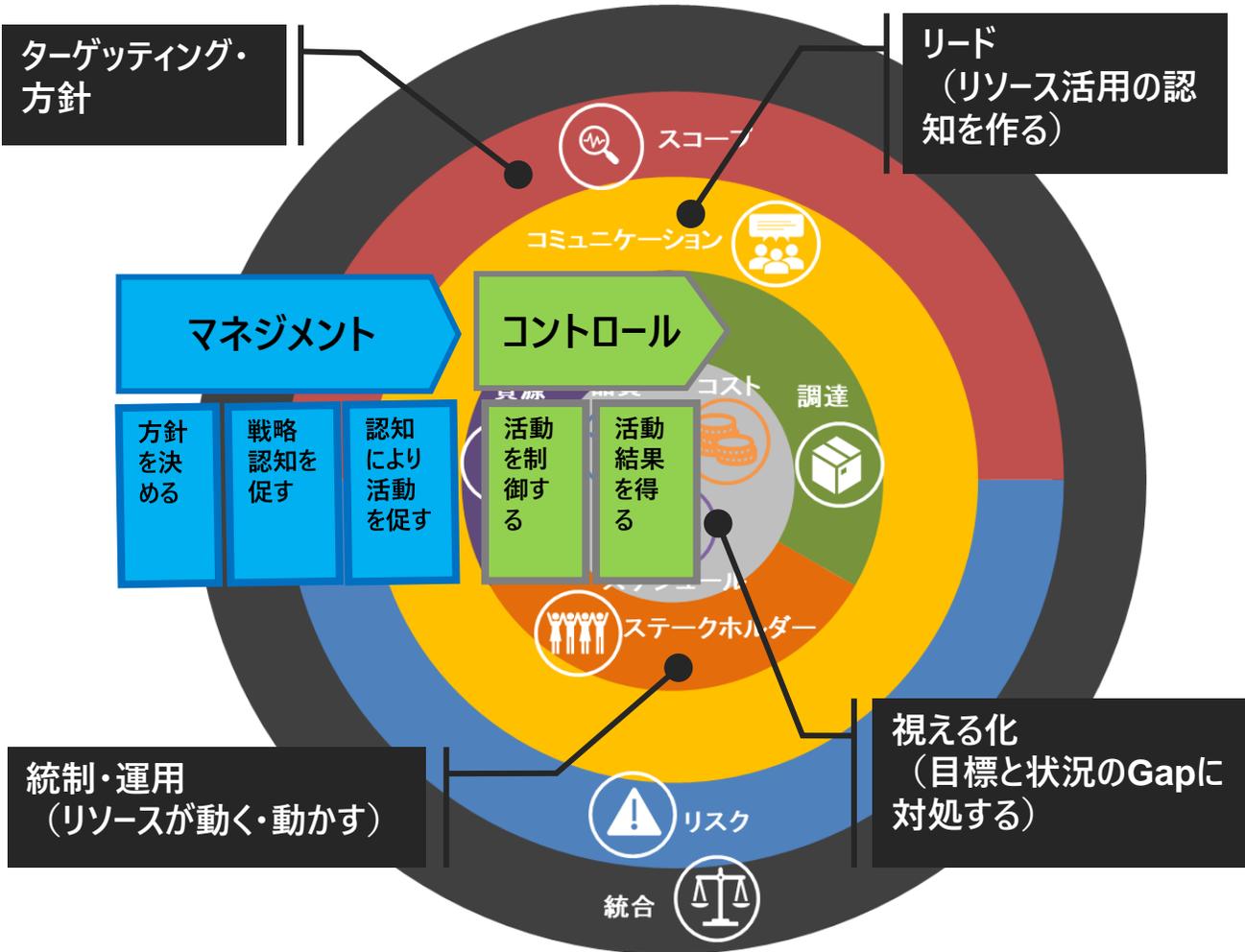
- ①前提・拘束条件； ゴールを明確化し、達成するのに必要な要素は何か
- ②戦略・戦術； どの様にその要素をそろえるか？ 障害を回避するか計画（達成までのRisk回避策と行動計画）
- ③統制・運用； 計画通りに進んでいるか計測するルールと軌道修正
- ④リーダーシップ等； メンバーが的確な行動をとる仕掛け

が、そろっている事が必要。



# プロジェクト・エンジニアリング (PJ-Eng) ってなに？

PJ-Engは、プロジェクト・マネジメント活動をSystemと捉えて構造分解したフレームワーク



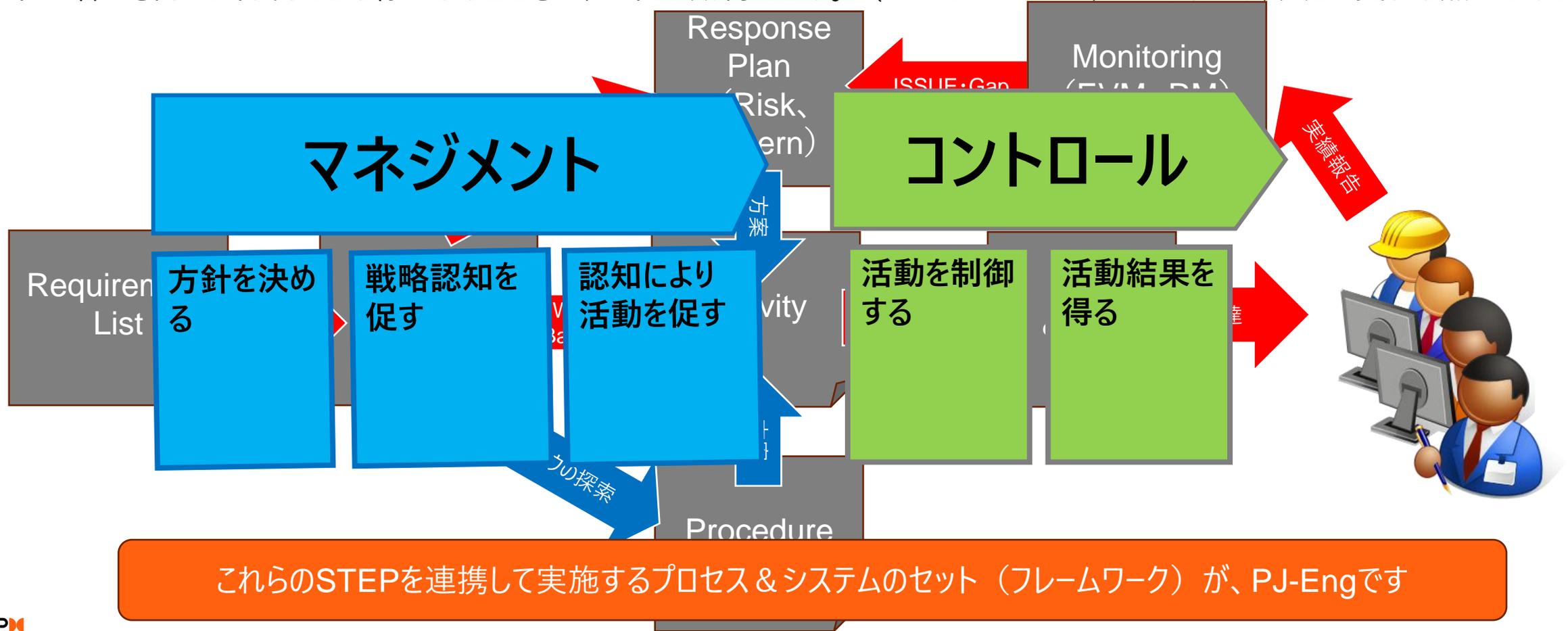
- ✓ プロジェクトマネジメント活動をSystemととらえ、その活動を設計・実行するもの
- ✓ 各活動のツール化だけではなく、それらのデータをつなぎ合わせて活用するのがPJ-Engの特徴。

- プロジェクト・マネジメント活動をSystemととらえるPJ-Eng。プロジェクト・マネジメント活動にAIを適用することは、Systemの自動化を行うことが目的となるため、プロジェクト・マネジメント活動にAIを活用する近道になることが期待できる。
- ただし、Systemが故に、実行組織のマネジメント成熟度によって、そのままでは実現レベルが異なってくる点には注意が必要。

# PJ-Engフロー

## フローとして模式化すると・・・

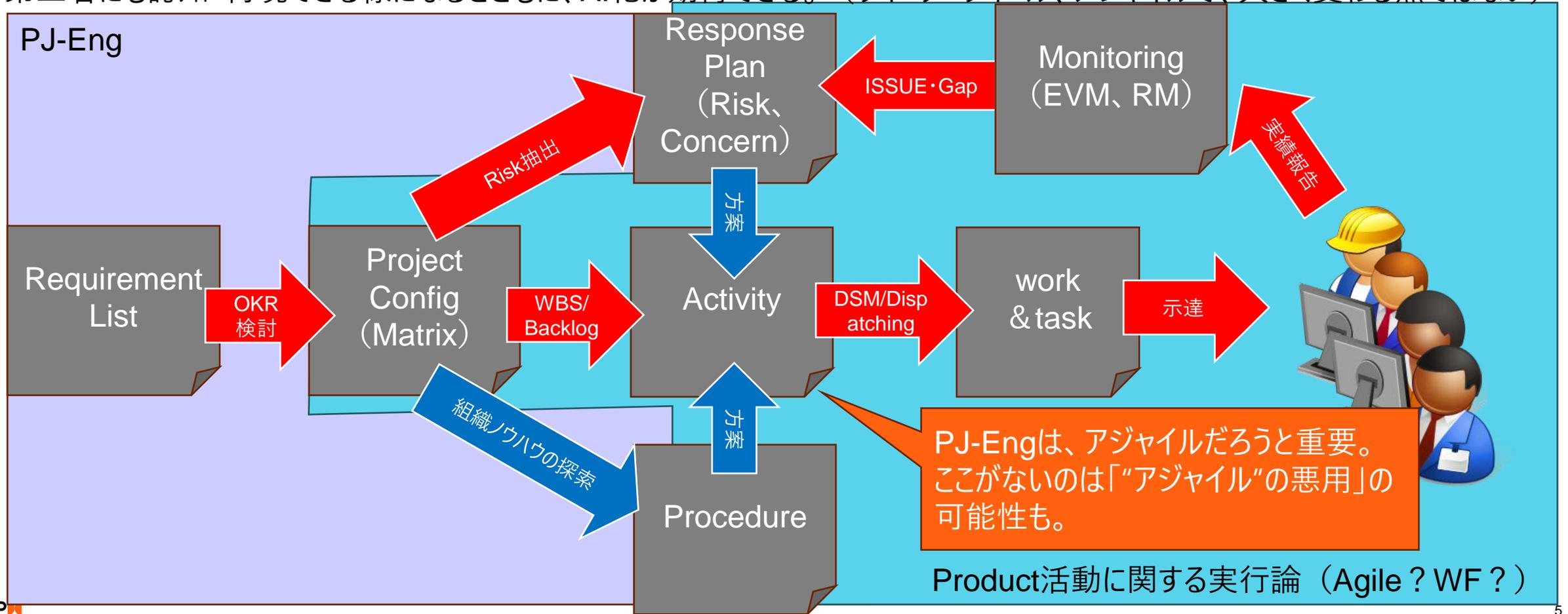
プロジェクト・マネジメント活動は、目的（Requirement）を達成するために実施するものですが、これまで、PMの感覚や経験論であった目的達成の情報構造・相関性・確率（プロジェクト・マネジメント・オントロジ）をフレームワークで既知化・集計可能にすれば、第三者にも認知・再現できる様になるとともに、AI化が期待できる。（ウォーターフォール、アジャイルで、大きく変わる点ではない）



# PJ-Engフロー

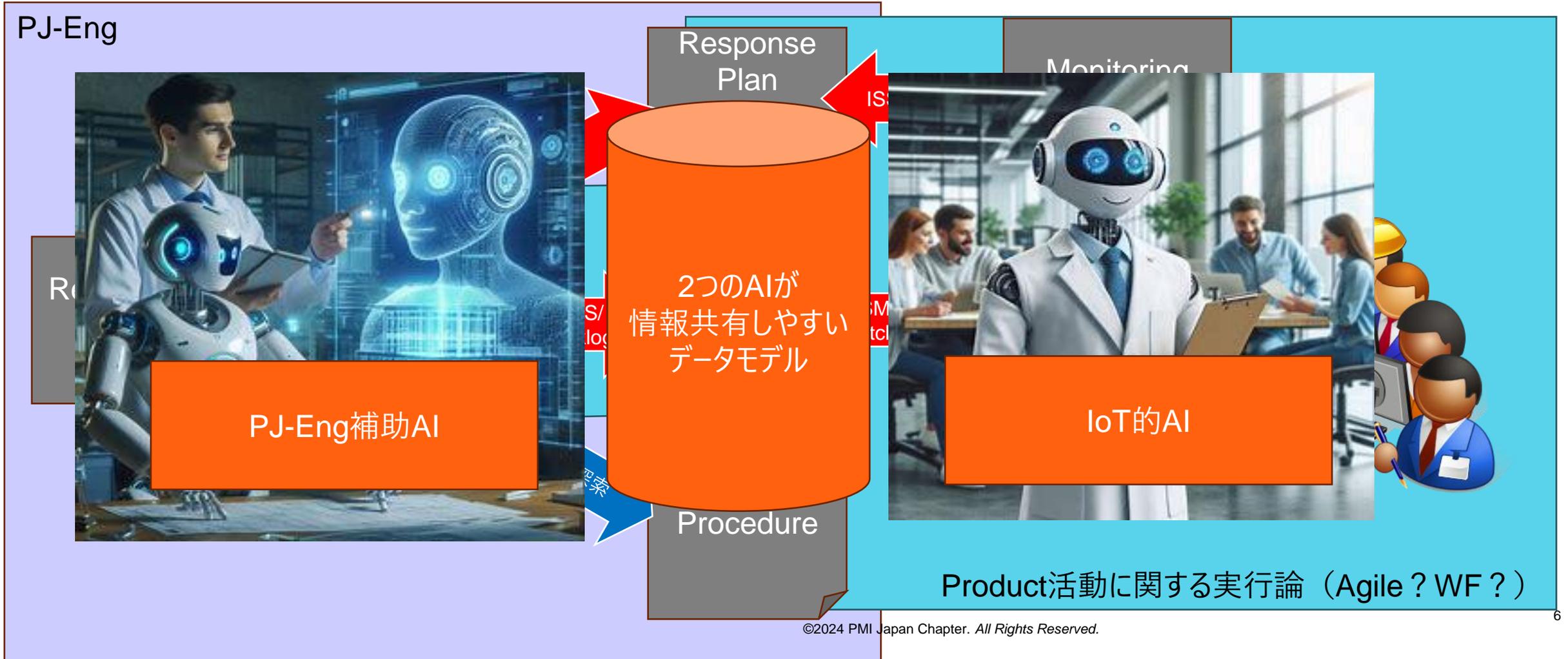
## フローとして模式化すると・・・

プロジェクト・マネジメント活動は、目的（Requirement）を達成するために実施するものですが、これまで、PMの感覚や経験論であった目的達成の情報構造・相関性・確率（プロジェクト・マネジメント・オントロジ）をフレームワークで既知化・集計可能にすれば、第三者にも認知・再現できる様になるとともに、AI化が期待できる。（ウォーターフォール、アジャイルで、大きく変わる点ではない）



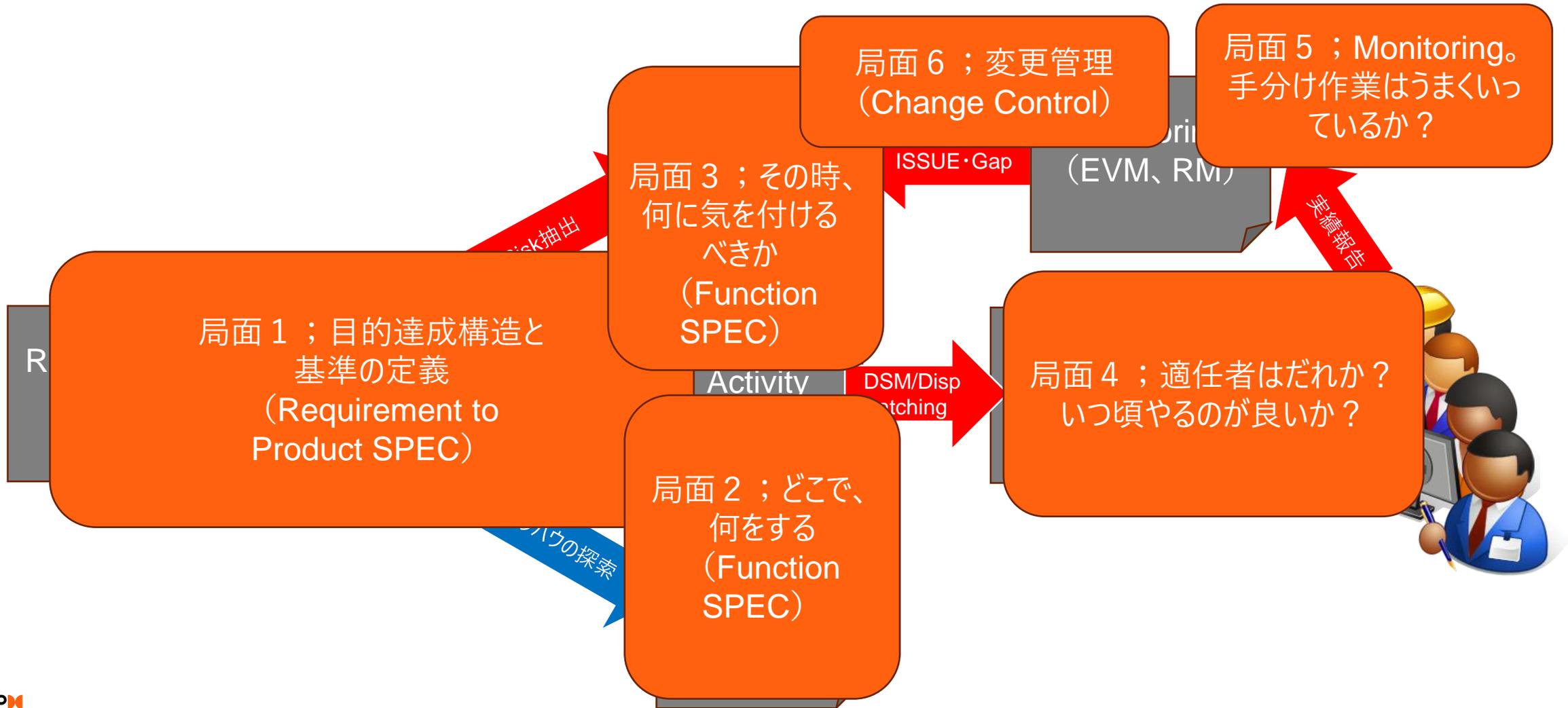
# PJ-Engから見たAI化の未来

現状の“汎用AI”だけでは、PMのAIといえるレベルのものにはならない。  
しかし、「今やっている、PMワークにおける作り方のプロセス・方法を、自動化すれば・・・？」という視点からすると、PM活動に「AIをはめ込む」ことができることが想定される。



# PJ-Engの局面化（ユースケースとしてとらえると）

PJマネジメント活動は、大きく、以下の6局面（活動目的と原理）に分けることができる。  
⇒この局面ごとにシステム化・AI化の検討を行う



## 本資料および動画の著作権について

本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に  
帰属しています。

本資料および動画の一部または全部を著作権  
者に無許可で複製、転載、公衆送信、口述、上  
映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用する  
ことは著作権法に反することとなります。